

B型慢性肝炎

54-4 消化器科・肝胆膵内科（教授）土島 睦

1. 日本の感染者は約 130 万人

B型肝炎は、血液を介してB型肝炎ウイルス（HBV）に感染することで起こる肝臓の病気です。HBVが肝臓内にすみつき、感染が続いている状態を「HBVキャリア」と呼びます。日本の感染者は約130万人いると推定され、100人に1人が感染者です。HBVキャリアの原因はウイルスをもつ母親から出産時に赤ちゃんに感染する母子感染（垂直感染）と免疫の働きがしっかりしていない乳幼児期に感染する乳幼児期感染（水平感染）がほとんどです。ただし、1986年から母子感染に対する対策により、あらたに母子感染がおこることはほとんどありません。一方、最近では成人の感染するケースが増えており、成人後の感染は慢性化することはありませんでしたが、外国から持ち込まれた異なるタイプのHBVに感染し慢性化する人も増えてきています。

B型肝炎ウイルス感染経路

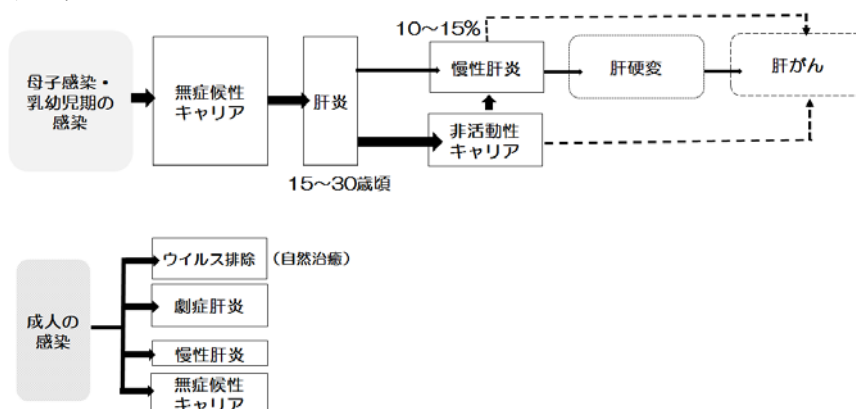
垂直感染

- 出生時の母子感染

水平感染

- HBV感染者からの輸血、臓器移植
- 出血を伴う民間療法
- 適切に消毒をしていない器具での入れ墨、ピアスの穴あけ
- 覚せい剤、麻薬の注射
- HBV感染者との性交渉、カミソリや歯ブラシの共有

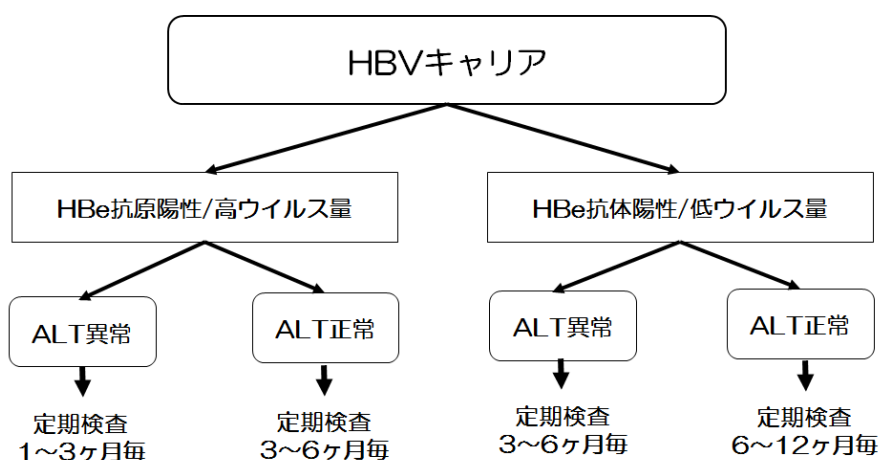
2. 感染後の経過



B型肝炎はいろいろな経過をたどります。慢性肝炎がおこる頻度は10~15%で、その他は非活動性キャリアになります。非活動性キャリアは肝機能異常をおこさずに一生過ごすこともあります。肝硬変や肝がんにも進行することもあります。また、肝硬変を経ず肝がんを発症することもあります。

3. 血液検査 と画像検査

血液検査では肝臓の細胞が壊れたときに血液中に出てくるAST(GOT)、ALT(GPT)とHBe抗原、HBe抗体というB型肝炎マーカー検査で肝臓の状態を定期的にチェックする必要があります。ウイルス量が多いほど肝硬変や肝がんになる危険性が高いため、ウイルス量を測ることも重要です。また、超音波検査、CT検査、MRI検査を行い、肝がんの有無も調べることが大切です。



4. 治療

治療目標はALT値を正常に保つ、ウイルス量を少なくする、発がんを抑える、毎日の生活を快適にし、長生きをすることです。治療は35歳未満と35歳以上で多少異なります。治療薬はウイルスの増殖を抑制し、免疫の働きを高めるインターフェロン注射かウイルスの遺伝子合成を抑制し、ウイルス量を減らす核酸アナログという内服薬です。いずれの治療も治療に係る医療費助成の手続きを行うと市町村税課税年額によって自己負担限度額が1万円または2万円を受けることができます。

5. 日常生活の注意点

HBVは、血液や体液を介して感染します。他の人に感染させないように注意が必要です。①献血はしない、②カミソリやハブラシは共有しない、③血液や分泌液がついた物はしっかりくるんで捨てる、④乳幼児に口移して食物を与えない、⑤性行為で感染することがあるので、相手が免疫をもっているか検査しておくことも大切です。